

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	873900518		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	グループホーム 山吹の里		
所在地	石岡市月岡1582-22 (電話) 0299-36-5510		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 5.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82.2 歳	最低 53 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石岡第一病院・柏木医院・寿星会石岡診療所・あだち歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの基本理念を「地域交流に目を向け、入居者主体の豊かな生活支援を」掲げ、常に理念を意識して利用者の支援に取り組んでいる。
管理者や職員は、利用者の自由と尊厳のある暮らしを支えるとともに、症状の改善など、自立に向けた支援をしている。
また、利用者の得意なことを発揮できるよう場面づくりをするなど、その人らしさを大切にお互いが協働しながら和やかな生活が送れるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を職員会議で話し合い、理念の掲示や昼食後の口腔ケアの実施、緊急時に対応できるよう救命講習会の受講、研修受講後の体制づくりの課題を改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の受審にあたり、自己評価を全職員で実施している。 外部評価でわかった課題について、改善シートを作成し、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の確保・向上に積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市役所職員、家族代表、民生委員等がメンバーとなって運営推進会議を開催しており、現状の報告や委員からの意見・課題等を討議している。 運営推進会議で出た意見や課題等を職員と検討し、サービスに活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書にホームの苦情相談窓口や第三者機関を明示している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族から気軽に意見を聞けるよう電話や面会時に声かけしている。 家族の面会時やホーム便りを利用して暮らしぶりを伝えるとともに、電話でも連絡している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方が立ち寄る、野菜を届けてくれる、ホームの行事に招待するなどにより、地域の方々と交流している。 また、保育園児との交流、踊りや演奏などのボランティアを受け入れている。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者主体の豊かな生活支援を基本理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者は職員採用時にホームの理念を伝え、周知と理解を図っている。 ミーティングでは理念の意義を確認するとともに、利用者のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方が立ち寄る、野菜を届けてくれる、ホームの行事に招待するなどにより、地域の方々と交流している。 また、保育園児との交流、踊りや演奏などのボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審にあたり、自己評価を全職員で実施している。 外部評価でわかった課題について、改善シートを作成し、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の確保・向上に積極的に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、家族代表、民生委員等がメンバーとなって運営推進会議を開催しており、現状の報告や委員からの意見・課題等を討議している。 運営推進会議で出た意見や課題等を職員と検討し、サービスに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市の社会福祉担当者と相談や助言等を行うとともに、市の担当者がホームを訪問している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時やホーム便りを利用して暮らしぶりを伝えるとともに、電話でも連絡している。 また、金銭管理は金銭出納帳のコピーを毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口や第三者機関を明示している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族から気軽に意見を聞けるよう電話や面会時に声かけしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的に対応できるよう心がけているが、やむを得ず異動や離職により職員が代わる場合は、利用者に挨拶している。 新しい職員を利用者に紹介し、利用者からホームのことを学ぶよう配慮している。	○	職員が代わる場合にホーム便り等で周知を図るなど、家族へも配慮する取り組みを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講した職員は、研修報告書を作成するとともに、職員会議で研修内容を報告している。 管理者及び計画作成者は研修を受講しているが、他の職員が十分に研修を受講できる体制にはなっていない。	○	職員一人ひとりのスキルアップを図るため、段階に応じた研修を受講できる体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の3事業所間で、他のグループホームを見学するなど、交流を深めるとともに、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者がホームの環境に馴染めるよう体験入居やホームの見学などを取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことを学んだり、楽しく喜びのある生活が送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の主体性を尊重し、希望に添った暮らしができるよう支援している。 意思の疎通が困難な利用者には、日々の関わりの中で言動や表情などから把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ICF（国際生活機能分類）に基づき、ケアに活かせるようアセスメントを行い、利用者や家族を交えて話し合いを行い、その人らしい暮らしを支える介護計画を作成している。 参加できない家族には、電話や面会時に意見や要望を聴き反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング表を活用し、見直しを行っているが、継続的に見直しするには至っていない。	○	利用者の心身の状態や状況変化に応じて、介護計画を見直すことを期待する。 また、変更する際には利用者や家族の要望等を聞き、要望に応じた介護計画の作成を期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケア（人生の最期を迎えるにあたってのケア）、通院介助、ホームでの宿泊支援など、利用者等の要望に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療やかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。 受診や通院は利用者・家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて、利用者や家族と話し合いを行うとともに、意志を確認している。 また、医療機関と密接な連携を図るとともに、終末期の方針を統一している。	○	今後、重度化や終末期のケアに関する対応マニュアルを作成することを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに優しく・さりげなく接し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、家族への電話等、利用者の思いや希望に添って支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が収穫した野菜で糠づけを作ったり、調理の下ごしらえや後片付けを一緒に行っている。 ホームで採れた野菜が食卓を彩り、笑いのある明るい雰囲気を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者には職員も一緒に入るなど、利用者が安心して入浴できる環境を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意なことを把握するとともに、発揮できるよう場面づくりをしている。 習字が得意な入居者の書いたものをポスターにし、掲示している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候やその時々希望に応じて、散歩や外食、ドライブなど戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは利用者が自由な暮らしを送れるよう取り組んでおり、玄関は利用者等の出入りが分るようセンサーを設置し、施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは自衛消防訓練のほか、通路の安全確保や防災ノートを作成するなど、災害対策に取り組んでいる。 また、地域からも協力を得られるよう働きかけるとともに井戸水の検査を行うなど、災害に備えている。	○	今後は、利用者の安全を確保できるよう消防署などと協議しながら、災害対策マニュアルを作成することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好に配慮した食生活を支援するため、栄養士に相談しながら献立を作成している。 利用者の大まかな栄養・水分摂取量を記録し、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に絵画を飾る、ソファを設置し、利用者がなごやかに生活できる環境を整えている。 周囲は豊かな自然環境に恵まれ、庭には季節の花が咲いているなど、安らぎと居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの品、仏壇や位牌などを持ち込んでいる。 また、手作りの作品などを飾り、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。